

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1470200302		
法人名	社会福祉法人 横浜みずず会		
事業所名	グループホーム フルハウス六角橋		
所在地	〒221-0802 横浜市神奈川区六角橋6丁目18番10号 (電話) 045-481-3375		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒223-0058 横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年3月19日

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年3月30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.58人	

(2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	4階建の	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(264,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 村上医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は市営地下鉄線岸根公園駅から南東へ徒歩6分の住宅街に立地し、近くに岸根公園があり、散歩、花見などを楽しむことができる。 ・「お互いの信頼、入居者主体、気持ちのよい入浴、自ら入りたい・家族を呼びたいホーム、地域の一員」をキーワードにした理念を職員参加のもとで作上げた。 ・職員は利用者を主体に、共感しあいながら支援し、幼児親子の訪問やお祭りへの参加など近隣との交流を積極的に行い、理念の実践に取り組んでいる。 ・毎月のケアカンファレンスで介護計画を作成し、6か月毎に見直しをしている。利用者の思いと生活状況を把握し、日常的にアセスメントシートに記録し、介護計画の見直しに活用している。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回評価の指摘事項について実施状況を確認した。運営方針を事業所内に掲示する指摘については実施されている。また、地域交流を深め、利用者の楽しみや活動の機会を広げるという指摘についても実現できている。 ・習熟度に応じた職員研修を実施し、研修成果を職員間で共有する指摘については、改善の余地があることを確認した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・管理者が職員と話し合い自己評価をまとめた。 ・事前に職員会議でミニ研修を行い、評価の意義を確認した。 ・評価結果をスタッフルームに置いていつでも閲覧できるようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・自治会長、民生委員、家族代表、利用者、および、地域包括支援センター職員をメンバーとし、昨年9月と本年1月に運営推進会議を開催した。 ・事業所の状況報告をした。毎日短時間でも外の空気を吸わせて欲しい旨の提案があり、屋外に畑と外気浴用のベンチを整備中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族訪問の頻度は、家族により毎日から月1回と様々だが、訪問時に意見・要望を聞き職員会議で検討し、サービスに反映している。事業所の行事に合わせて家族会を開いている。 ・今まで苦情を受けたことはない。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・利用者全員が自治会に入会している。昨年4月の敬老会では自治会長より個人々に賞状、記念品を頂いた。 ・事業所へは近隣の幼児親子グループの訪問があり、また、納涼祭、お祭り、自治会の防災訓練に事業所も参加するなど、地域との交流に努めている。
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「お互いの信頼、入居者主体、気持ちのよい入浴、自ら入りたい・家族を呼びたいホーム、地域の一員」をキーワードにした理念を職員参加のもとで作り上げた。 ・理念を事業所内に掲示し、家族会、運営推進会議でも説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ケースカンファレンスや職員会議で理念を活かす取り組みを討議している。 ・職員は利用者主体に共感しあいながらサービスを行い、幼児親子の訪問やお祭りへの参加など近隣との交流を通じて理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者全員が個人で自治会に入会している。昨年4月の敬老会では自治会長から個人向けの賞状や、記念品を頂いた。 ・近隣の幼児親子グループの訪問や、納涼祭、お祭り、自治会の防災訓練への参加など地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が職員と話し合い、自己評価をまとめた。 ・事前に職員会議でミニ研修を行い、評価の意義を確認した。 ・評価結果をスタッフルームに置いて閲覧できるようにしている。また、運営推進会議に報告する予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	・自治会長、民生委員、家族代表、利用者、および、地域包括支援センター職員をメンバーとし、昨年9月と、本年1月に運営推進会議を開催した。 ・事業所の状況報告を行った。毎日短時間でも外の空気を吸わせて欲しい旨の提案があり、屋外に畑と外気浴用のベンチを整備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 区連絡会に参加し、また区役所との手続きの機会を通じて連携が出来ており、必要な情報を得ている。 横浜市グループホーム連絡会に加入し、制度変更時の説明、研修会の情報などを得ている。 		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> 出納帳は毎月、行事など利用者全般にかかわることは年4～5回、家族に郵送し報告している。 家族訪問の頻度は家族により毎日から月1回と様々だが、訪問時に利用者の状況を報告している。 事業所の行事に合わせて家族会を開いている。今後は2～3か月毎に行う予定である。 		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 家族の訪問時に意見や要望を聞くようにしている。歩かせて欲しい、病気をしないように、などの意見がだされサービスに反映している。 今まで苦情を受けたことはない。 		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の離職はほとんどなく(去年は1人のみ)定着しており、離職にかかわる問題はない。 特に離職を防ぐ工夫はしていないが、日常の意見交換を密にしている。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議やケアカンファレンスで、緊急時の対応や、転倒時の対応などのミニ内部研修を行っている。 外部研修には、本年2月のグループホーム交換研修に3名参加する予定である。 介護福祉士資格をとるように職員に勧めている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> サービスの質の向上を目的に、職員の経験に応じて外部研修に参加することが望まれる。研修の成果を事業所内で報告し、全職員が共有することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市グループホーム連絡会に加入しており、市委託の交換研修、グループホーム発表会、基調講演などの研修会情報を得ている。 上記及び他の機会を通じて同業者との情報交換に努めている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・昨年5月に1名入居したが、家族との連絡を密にし、利用者が徐々に事業所の雰囲気馴染むように配慮している。 ・要望があれば体験入所をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・洗濯物たたみ、縫い物、テーブル拭きなど、利用者が主体的にやりたいことができるように支援している。 ・職員は利用者からねぎらいの言葉をかけられたり、互いに共感しながら支え合う関係を築いている。 ・調理の味付けなど教えられる事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の思いと生活状況を把握し、日常的にアセスメントシートに記録し、介護計画に反映している。 ・表情、機嫌などから利用者の思いを把握している。認知症への対応次第で利用者の思いが変わることを、管理者が職員に指導している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスを月1回行い、アセスメントシート、ケース記録、診療情報、職員情報、および、家族意見を基に介護計画を作成している。今後は月2回のカンファレンスを計画している。 ・介護計画には家族の意見や医師の意見を反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・6か月ごとに介護計画を見直し、家族の了解を得ている。 ・心身状態の変化に対しては、必要に応じて介護計画に修正を加え、家族と連携をとりながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族の要望に応じて通院時に付き添っている。 ・地域住民からの問い合わせに応じて他の事業所の紹介や介護情報などを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関である村上医院から隔週の往診がある。また、必要に応じて歯科医の往診もある。 ・希望のかかりつけ医に通院している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医療連携体制加算を申請する体制にあり、ターミナルケア指針原案を作成した。訪問看護ステーションの看護師が毎週来ることになっている。 ・ターミナルケア実施に際しては家族、医師、看護師との連携を密にしていく計画である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・管理者をはじめ職員が利用者一人ひとりの尊厳を念頭に置き支援している。ケース会議ではプライバシーの保護について繰り返し確認している。 ・職員はトイレ誘導の際、本人の自立を妨げないように穏やかにゆっくりと笑顔で対応している。 ・個人情報保護規定を家族に説明している。個人の記録は鍵のかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は利用者の意思・行動を大切にして、さりげなく支援し見守っている ・起床・就寝時間は利用者の希望通りにしている。 ・理・美容希望者には職員が近隣の理髪店に同行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は利用者の希望を取り入れ作成している。希望品目がある時は一緒に買物に出掛けている。 ・職員は一緒に食事し、さりげなく食べこぼしを片付けている。 ・嚥下困難な利用者にも献立を説明し、一口づつ嚥下を確認しながらゆっくりと介助している。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・理念にある「気持ちのよい入浴」を実現すべく、ゆっくり入浴介助をしている。隔日の入浴を基本とし、毎日の入浴希望にも対応している。入浴を好まない利用者にも週3回は入浴を楽しめるように支援している。 ・入浴後は乾燥による痒み防止のため保湿剤を塗布し、爽快感を味わえるように配慮している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じて、洗濯物たみやモップかけなど家事手伝いの役割を持ち、張り合いや喜びを持った一日となるように支援している。書くことが好きな利用者は、月ごとのカレンダー作りを担当している。 ・中庭に畑を整備したので野菜作りの活躍の場ができ、利用者が春を楽しみにしている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に広い公園まで車椅子の方も含めて週3回散歩している。希望にそって平坦な道を約20分散歩し、下肢筋力の低下防止や気分転換を図っている。 ・月1回近隣のファミリーレストランに出かけ外食を楽しんだり、理髪店に出かけたりしている。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の前と裏に交通量の多い通りがあり、交通事故のリスクが高く、また外出欲求が高い利用者が多い為、玄関は日中も施錠している。施錠については家族に説明し同意を得ている。 ・居室は利用者の意思で中から施錠でき、外からも開錠できるようになっている。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、消防、事業所関係者を含めた緊急連絡網を壁に掲示し職員に周知している。 ・消火器を設置している。火災報知器は消防署に自動通報するシステムになっている。備蓄は3日分である。 ・昨年11月、近隣小学校で行った自治会の防災訓練に参加し、避難ルートを確認した。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日30品目を目標に栄養バランスをとるように努めている。 ・嚥下困難な利用者にはミキサー食を用意し、糖尿病や高血圧などの疾患に合わせた摂食に配慮している。 ・入浴後、及び2時間ごとにお茶やコーヒーなどで水分補給をしている。訪問看護を契約したので、水分チェック体制は更に充実する予定である。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・天窓の採光があり、風通しに心がけ、不快な臭気はない。騒音はなく適温である。リビングのソファで気の合う仲間が集まり寛いでいる。 ・厨房がリビングと一体であり調理の職員も見え、おいしい匂いが漂い、家庭的で居心地のよい空間となっている。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの家具や品物があり、写真を貼って、表札に飾りをつけるなど個性的な居室となっている。 ・エアコンで冷暖房をし、毎日の掃除で清潔を保持している。 ・ベッドを使用し、シーツ交換は基本的に週1回であるが、汚れた時は適宜交換し清潔を維持している。 		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、地域の一員として自覚がもてるような生活を目指す。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	意識して取り組みつつある。近隣商店での買い物や散髪、挨拶、道路の清掃等を利用者と一緒に行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	まだ端緒であり十分には浸透していない。いろいろな機会をみて理解が得られるように話している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に個人単位で加入し、敬老の日の訪問や、祭礼、避難訓練に参加した。地域の幼児グループの母子の訪問あり、交流会を開いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>具体的な取り組みは行っていない。</p>	○	<p>認知症介護教室や高齢者の溜まり場、しべり場的な場所の提供。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を中心に総括の話し合いはしたが、継続して改善に取り組んでいるとは言えない。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>まだ実施回数は少ないが、利用者家族からは、建設的な意見が出され、運営向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区連絡会やグループホーム連絡会に加入している。また、立入調査等により連携あり、情報交換をしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等により理解しており、必要があれば助言援助をするつもりである。しかし、具体的にそのような事案は出現していない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>常に努めている。意識しないままの虐待もあるので注意を払っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって面接を行い、説明と同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>改まって表現できる利用者は少ないが、表出されたことには耳を傾け、態度や表情、ことばから汲み取り、日々の援助に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居利用者全員に関わることは定期的に、個々人については面会時や定期報告に加筆して伝えている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気楽に意見等言える雰囲気と声かけをしている。件数は少ないが、反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を月1回開催している。また、随時意見、提案はすくい上げ反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院や行事に合わせ調整して対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮している。(異動は少ない)</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要性は痛感し、機会に応じ勧めているが、人員確保がままならず十分とは言えない。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡会を媒介とした交流や、交換研修を実施している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎日の休憩時間の確保や職員会議の場での話し合い。年に数回は慰労会を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に居宅訪問をし、また納得、理解が得られるよう何度でも面会し聴く機会をもっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至るまで複数回、相談の機会をもっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは他のサービスとの併用は出来ず、在宅ケアマネの領域と思われるのでこのような対応はしていない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同上		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	将棋や花札、トランプゲーム等利用者主導で、職員は教示してもらっている。洗濯物の整理や料理を一緒に行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム内での問題となる周辺症状について、伝えなくてもよいことは家族の耳には入れないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているがこの項は家族が関係する部分が大きいため、十分な支援ができていない。面会歓迎の意と時々葉書や、年賀状を出すよう手助けしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症利用者は感情の起伏、気分の変化が激しく、いさかいになる場面も多いが、仲裁を図りながら関わり合う機会を見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	そのような例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めているが、激しい喫煙要求等で苦慮している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成しているが、心身の状態の変化が激しく、計画表に反映仕切れない時がある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間単位で見直しを要することもあり、努めて現状に即した計画を作成し周知励行するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯毎に個人記録を記入、ケアの引継ぎとプランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単体のグループホームのため行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力しながら支援とはいいい難いが、外出して戻れなくなり、警察に協力願った。近くの武道館に行き、柔剣道の練習を見学させてもらうことがある。	○	ボランティアの協力を得て、個々人に応じた生活の幅が広がるように支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護サービス利用では新たな自己負担が発生するため、進めていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない。必要な状況に至ったら依頼したい。運営推進会議のオブザーバーとして、地域包括の所長に加わっていただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に主治医の往診を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	20年度からの導入を目指している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	「医療連携」導入に合わせ全員の意向を話し合い、共有できるようにしたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	同上
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	徹底して行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自尊心を損なわないよう配慮しながら支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援するようにしているが、認知疾患の軽重により思い通りにいかない時が多い。起床、就寝、食事時間、食事量等は希望に応じている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	努めているが、希望の表出が少なく、選択肢を勧めて選んでいただく事が多い。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。食事は楽しみであり、食欲も旺盛である。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	支援している。たばこは健康面と火災の恐れから禁煙としている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の人数の問題あり、曜日や時間帯を決めておこなっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	必ずしも1人ひとりに合った支援を毎日行い得ていないが、運動や散歩、家事、レク等を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。9人中3人が所持している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望通りには支援していない。	○	1:3の人員基準の中では実行困難。家族やボランティアさんの協力をお願いして、外出の機会を増やすようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援しているが、機会は少ない。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた後、難聴の人には代わって伝言する等おこなっている。葉書や年賀状をしたためるよう、勧めて手助けをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所時は湯茶を出し、利用者や職員と気軽に交わることができるよう、配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目配り、気配りをして、転倒等事故を未然に防ぐようにし、身体拘束はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通事故のリスクと、出かけてしまうと戻れない利用者がほぼ全員であり、昼夜共施錠している。単独で外出可能な人(1名)はその都度開錠して対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮して行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	配慮して行っている。(固形石鹼を口にする場合もあり、手の届かない所に置き、手洗いの都度渡している)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる。特に転倒、誤嚥、外出不明、火災には気を配って、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1, 2回行っているが、具体的内容に乏しい。	○	応急手当や初期対応の訓練を繰り返し行い、身に付けるようにしたい。緊急時の連絡ルートも再度徹底する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との関わりは始まったばかりで、具体的な取り決めはできていない。	○	働きかけ、協力を得て具体化する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認しながら行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。排便記録をとって主治医と相談している。水分量を十分摂取するよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助または、声かけにより行っている。義歯は就寝前に預かり、毎日洗浄している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。水分不足に陥らないよう特に気を配っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス罹患の経験から、手洗いうがいと、毎日複数回トイレの掃除と除菌を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている。特に生物の調理には注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に建物周囲が雑然として、工夫が足りない。	○	整備して親しみやすい環境に整備したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や季節の鉢花を置き、居心地良くしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、ソファーや椅子を多めに配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調の配慮をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分ではないが、必要な個所に手すり等設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室表札やトイレ張り紙により分るようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	十分には活かしていない。	○	利用者と一緒に整備し、バーベキュー等行えるようにする。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・1人ひとりの尊厳を重んじて、丁寧な対応をする。

・認知症の疾患によるハンディをさりげなく補って、主体的に気分良く日々過ごす。

・食事は楽しみなため、希望を取り入れ、行事食や季節感を大事にしている。